

こんなに近くに…

札幌市立篠路西中学校3年 石戸 柚衣

私の伯母夫婦は、青森で飲食店を経営しています。ラーメン屋です。昨年初めて私がそこへ行った時、すごく繁盛していたのを覚えています。注文の電話も絶えずにかかってくるたくさんの人に愛されているお店です。私の家にも頻繁に生麺を送ってくれるので、私は毎回その日を楽しみに過ごしています。

しかし今、新型コロナウイルスの影響により、お客様の数が急激に減少してしまったと聞きました。私はそれを聞き、お店がすごく心配になりました。そのため、伯母に聞いてみることにしたのです。すると、「売上げが全然なくて困ったよ。お店の準備はしてあるのにお客さんが来ないから食材も余る。でも人件費はかかる。大変だったよ。」私は不安で胸がいっぱいになりました。けれど次の言葉を聞きホッとすることができたのです。「でも県や市などから支援金があったから、お店をなくさなくて済んだんだ。本当に感謝してもしきれないよ…。」

その後、私はそれが税金からでているお金だと知りました。こんなに感謝の気持ちでいっぱいになっている伯母を見るのは初めてでした。新型コロナウイルスによって国全体が大変な状況にあるにも関わらず、第一に国民のことを考えた税の使い方をしてくれていることに私も感謝してもしきれないです。そして、このようなことを身近に感じられたことにより、私は“税は国民が健康に幸せに安心して生きるために使われている”と知ることができました。税はたくさんの人々を救っているのです。すなわち、税は人が人を助けるシステムであると言えます。そして、それこそが税が存在し、私たちが税を納めなければならない最大の理由であると考えます。

普段、普通に生活をしていると、税の意義が気がつくことは難しいと思います。だからこそ、そのことを知ることができた私が、周りの人に税の大切さを伝えていくべきだと考えます。そのためにはまず、人々が税についてどのように考えているかを知る必要があります。内閣府のデータによると、まず税金に興味がないという人が二割以上いることがわかっています。そして七割以上の人が税について不公平があると思っています。しかし、そのように考えている人々も何度も税に助けられているはずです。今年は、新型コロナウイルスの影響を受け、ほとんどの人が税に助けられました。

中学生の私たちが払う主な税は“消費税”です。私たちは消費税によって、たくさんの人々の生活を支えています。そのことを理解しておくことで、税について興味がない人々や不公平だと考えている人々の考え方が変わると思います。だからこそ私は多くの人に広めていきたいです。

こんなに近くで感じられた税の大切さ、ありがたみを。